

男子アルゼンチンバスケットボールの 強化・育成に関する研究

トップスポーツマネジメントコース

5011A331-7

東野（斎須）智弥

研究指導教員:平田 竹男 教授

本研究は、アルゼンチン男子バスケットボール代表の成功要因を明らかにしたものである。

第1章では、背景と目的を述べた。近年、バスケットボールアルゼンチン男子代表の世界大会における活躍は著しい。44年ぶりに1996年アトランタオリンピックに出場すると、その後、2002年世界選手権では準優勝、2004年アテネオリンピックでは優勝を果たした。また、アンダーカテゴリーの世界大会の戦績も加味されているFIBAランキング（2011年11月）においては3位に入っている。日本と同程度の平均身長でありながら、アルゼンチンは日本も経験している約40年のオリンピック不出場から抜け出し、さらには、世界大会で好成績を残し続けている。そこで本研究では、男子バスケットボールアルゼンチン代表の成功要因を明らかにすることを目的とする。

第2章では、研究手法を記述した。本研究では、まず、アルゼンチン現地でインタビュー調査を行った。育成統括の責任者、代表ヘッドコーチ、そして、審判部専務理事など全16名のバスケットボール関係者に急成長した要因や育成・強化施策について調査を行った。次に、2つの

アンケート調査を行った。クラブ所属のジュニア選手69名に対しては、バスケットボールに関する意識や練習内容及び環境について、クラブ育成に関わる指導者9名に対しては、年代別指導方法について調査を行った。

第3章では、16名に対するインタビュー調査結果についてその質問項目ごとに整理し、第4章では、そのインタビュー調査結果を「クラブ」、「リーグ」、「連盟」ごとの施策に分類し、まとめた。クラブでは、選手を年代別で育成し、飛び級制度など優秀な選手を輩出できる仕組みを設けていた。さらに、世界の中で比較的体格が劣るため、15歳からフィジカルトレーニングの強化に力を入れていた。また、選手の競技力を高めるためにリーグが創設されたが、リーグは8カテゴリーに分けられ、どのカテゴリーに所属する選手に対しても試合数が確保されるようリーグが成り立っていた。さらに、リーグは優秀な選手輩出のため19歳以下の選手の登録を3名に定める制度を導入している。また、連盟とリーグは連携して審判の講習会を開催し、リーグにおいて世界基準のジャッチが行われるよう努めている。連盟は、選手の育成、強化のため

に、優秀な選手を国中から集めるプログラムと独自に設けた基準値よりも高い身長選手を集めるプログラム、そして、州選抜制度を併せて実施し、世界で通用する可能性のある選手を漏れ無く発掘する施策を行っていた。

第5章では、クラブのジュニア選手、指導者に対するアンケート調査結果を記述した。クラブのジュニア選手は練習量、試合数がコントロールされていたが、自主的に練習に取り組んでいることが分かった。指導者に対する調査では、指導方法に関して共通の認識があることが分かり、「mini」の世代では選手に求めることが少なく、年代が上がるに連れて、フィジカルや空間認識能力といったものが重要視されることが分かった。

第6章では、これまでの研究結果を基に、アルゼンチン男子バスケットボールの成功要因を考察した。まず、インタビュー結果を基に、施策を行う「クラブ」、「リーグ」、「連盟」の3主体を横軸に、施策の影響を受ける「選手」、「コーチ」、「審判」、「環境/マネジメント」の4要因を縦軸にとり、アルゼンチンの成功構造を整理した。そして、この成功構造から、アルゼンチンが成功した要因を3つあげた。

1つ目は、「クラブ」、「リーグ」、「連盟」のベクトルが世界へ向かっていることである。アルゼンチンは「クラブ」、「リーグ」、「連盟」が一体化し、ベクトルが合っていると考えられる。リーグは、指導

者を世界基準化するために、優秀な外国人指導者しか国内クラブに就任できないように条件を設けた。この制度は自国の指導者が他国の優秀なコーチに匹敵する存在になるための施策である。また、「フィジカルコンタクト」に対する認識も共通しており、クラブでは15歳からフィジカルトレーニングに注力している。さらに、国内で吹かれているジャッジで選手が育つと考えられているため国内リーグのジャッジは、審判とコーチの継続的な講習会のもと世界基準が保たれている。

2つ目は、「自前」の選手育成強化である。クラブでは、8つのカテゴリーを設け「一貫指導」を行い、育成専門のコーチが兼任する状況の中、特出した選手を「飛び級」させる育成方法を行っていた。また、トップチームに19歳以下の選手を3名登録しなくてはならないというルールを作り、世界で活躍できる選手の育成に注力していた。さらに、これらの、育成方式はサッカークラブと似た強化・育成システムであると言える。

3つ目は、育成発掘プログラムである。従来の技術の優れた選手を発掘することに加えて、2007年から「身長」発掘プログラムを行なっている。世界で戦うためには、この「身長」を意識した育成が非常に重要であり、アルゼンチンバスケットボールは日本の平均身長と同程度にも関わらず世界を意識した身長の基準値を設け、世界に通用する高さを持つ選手を強化、育成している。